

平成29年度 学校だより(学力特集号)

平成29年11月14日
北九州市立戸ノ上中学校
校長 木村 康晴

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

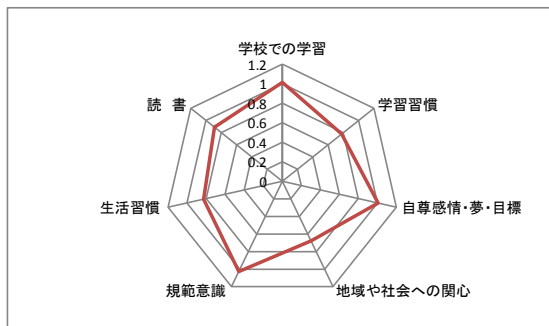
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	問題文中の語句から選択することや描写に注意して読むことは正答率が高いが語句を工夫して表現することは正答率が低い。	下回っている
国語B	長い文章や設問の意味を理解することは正答率が高いが表現をする問題は不得意である。	上回っている
数学A	全国を基準にした時大きく正答率が高いものと反対に低いもののが多くありムラがある。	下回っている
数学B	全国を基準にした時正答率が高いものと低いもののがまざっている。A問題同様にムラがある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・学習習慣では、自分で計画を立てて、勉強している生徒の割合は全国平均より低く、再度家庭学習の勉強の仕方について指導が必要である。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある生徒は全国平均より高い。
- ・学校の規則を守っている生徒は全国平均より高い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 全学年で週末宿題や1日1ページノートで家庭学習に取り組みせ点検活動を徹底することで基礎学力の定着を図っている。
- 全学年、朝自習の時間に漢字や英単語等の反復練習とテストを行い、学力向上に努めている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習から「家庭で授業の復習をする」生徒の割合は全国平均よりも低いということが分かった。そのため計画を立てて勉強する方法と復習を中心に家庭学習に取り組む方法について、生徒一人一人にアドバイスをする。